

平成 24 年度

図書館の活性化—調査研究事業—

「被災図書館への復旧支援のアクション・プラン策定」

平成 25 年 5 月 7 日

平成 24 年度図書館の活性化—調査研究—事業
「被災図書館への復旧支援のアクション・プラン策定」

1. はじめに

1.1. 事業の目的

平成 23(2011)年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、東北から関東の広い範囲で多くの図書館が被災した。公益財団法人図書館振興財団（以下、「財団」という。）は、震災後、図書館が活動を再開するために必要と思われる支援を行ってきた。しかし、その支援は当然とはいえ試行錯誤であり、今後、同様の災害が発生した際、被災した図書館への支援のあり方について日常的に考え、対応できることの必要性を痛感した。そこで、財団として対応可能な支援のあり方について、アクション・プランの早期策定が必要であるとの認識の下に検討を実施することとした。

1.2. 「被災図書館への復旧支援のアクション・プラン策定」委員会

委員会のメンバーとして、実際に東日本大震災で被災した図書館、平成 7(1995)年の阪神・淡路大震災を経験した図書館、学識経験者等に委嘱し、委員会を組織し検討することとした。委員は《表 1》の通りである。

平成 24 年 10 月 12 日（金）～平成 25 年 4 月 12 日（金）に計 4 回委員会を行い、アクション・プランを策定した。

《表 1》委員名簿

氏 名	所 属
石 川 徹 也	公益財団法人図書館振興財団常任理事
加 藤 孔 敬	宮城県東松島市図書館副館長
中 沢 孝 之	草津町立図書館司書
根 本 彰	東京大学大学院教育学研究科教授
松 永 憲 明	神戸市立中央図書館利用サービス課長

（五十音順）

1.3. 委員会開催記録

- 第 1 回 日程：平成 24 年 10 月 12 日（金）
 内容：図書館振興財団の震災支援および当委員会の説明（石川委員）
 被災時の経験、課題の報告（各委員）
- 第 2 回 日程：平成 24 年 11 月 9 日（金）
 内容：被災直後の支援という際の「直後」とは
 望まれる支援、望ましくない支援

- 第3回 日程：平成25年1月25日（金）
内容：支援の時期タイミングについて
- 第4回 日程：平成25年4月12日（金）
内容：アクション・プラン（案）の検討

2. 図書館振興財団の被災図書館支援事業と評価

2.1. 図書館振興財団の被災図書館支援事業

財団は、震災から約1ヶ月を経過した平成23(2011)年4月中旬よりホームページ上で、以下の3つの方針を立て、被災した図書館からの支援要請を受け付けた。これまでに行った支援の実績等は《表2》の通りである。具体的な支援先・支援内容の一部について《表3》に示す。

(1) 具体的な支援物資の要請をホームページで受け付ける

あらかじめ支援物資等を用意することは保管の面から難しく、被災地までの交通網が遮断されていることも考えられるため行わない。基本は被災地の図書館が調達した物資の支払を代行する。それが不可能な場合は購入も代行する。

(2) 現金での寄附は行わない

現金での寄附は、被災地での受け入れ手続きにかかる時間や、担当事務の負担を考慮し、実施しない。

(3) 募金活動は行わない

募金が被災地で受け入れられるまでに、手続き等に時間がかかり即時の支援とならないため、また、財団の負担が大きいことから、募金活動は行わない。

《表2》財団が行った支援状況

年 度	支援図書館数	支援金額※
平成23(2011)年度	66館	132,083,787円
平成24(2012)年度	11館	27,635,217円

※支援金額は物資購入費や支払代行を実施した額

《表3》支援先・支援内容（一部）

自治体名	支援内容
大槌町	書架用安全安心シート／段ボール製書架／プレハブ／図書装備ラベル作成／プリンタ／仮設書庫床張り等／小学校移動図書室整備
陸前高田市	プレハブ／コンテナ／図書装備ラベル作成
東松島市	紙芝居製作／本・CD等資料／複式4連6段書架／ブックコート／書

	架／図書館家具
名取市	プレハブ
南三陸町	BM／図書装備代金／プレハブ
いわき市	書架用 安全安心シート／書架／パンフレットスタンド／ブックトラック／ブックエンド／差込表示板
釜石市	家庭用除湿機／ブックポスト／シュレッダー／テレビ／書籍落下対策用滑り止めテープ

財団は以下の団体から寄附・支援を受け、支援を行った。

☆詳細は財団ホームページ http://www.toshokan.or.jp/jigyoushiensaki_h23.php 参照

寄附団体：森ビル株式会社*・財団法人東京大学出版会**・財団法人日本出版クラブ***

*セミナー等の収益の一部、有志からの寄付

**図書印税の一部を寄付

***支援物資として図書の提供

支援協力：株式会社図書館流通センター****

****現地を訪問しての聞き取り、物資の調達や輸送などの協力

《支援先からのメッセージ例》

「おかげ様で、10月11日（火）に「南館」をオープンすることができました。カウンターや新聞・雑誌の閲覧コーナーのほか、旅行や医療関係の図書、大活字本、郷土資料や参考図書の一部なども入れることができ、20坪ではありますが、結構充実した内容になったと思っております。」（名取市立図書館）



「図書館の再開が被災者や子どもたちに安らぎをあたえ、街の賑わい創出につながるように、「がんばっぺ！いわき」を合言葉に、職員一丸となってより地域に役に立つ図書館運営に努めて参ります。」（いわき市立図書館）



「これからは皆様のご厚意に報いるためにも、より一層市民に親しまれる図書館、また被災された方々の心のよりどころとしての図書館をめざし、一同努力していく所存です。」（釜石市立図書館）

2.2. 財団の支援事業の評価

委員会において、東日本大震災による被災図書館への財団の支援事業に対する評価を行った。民間団体である強みを生かし、計画書の提出等の申請手続きの簡略化を進めて、

支援要請に迅速に対応したことや、被災図書館からの支援要請を直接受け付けたこと等について妥当であると評価を得た。

《支援対応例》

◎被災地からの申請

東松島市図書館より申請（2011年9月6日付）

11月以降、貸与された移動図書館車を使用した支援の継続が難しいので、図書館から遠隔地に位置する応急仮設住宅の入居者に対して、住宅内の集会施設に図書コーナーを設置したい。*

- ・スチール製書架を4箇所につき2台ずつ
- ・簡易スチール書架を3箇所につき1台ずつ

◎財団からの支援（9月7日対応）

※市内14箇所のうち、戸数の多い応急仮設住宅地区の集会所7箇所に設置

東松島市は今回の震災で亡くなった図書館ボランティアの方の業績を記念する紙芝居『初めて世界一周した日本人 若宮丸漂流』を制作し、財団はその事業に対して支援を行った。その印刷を受注した石巻日日新聞は、床上浸水や輪転機の破損という危機的状況の中で、こうした受注は非常にありがたく、復旧への第一歩に繋げようと一つ一つ丁寧に取り組むことができた、とのことである。

一方、現地では、「図書館振興財団が被災図書館の支援をしていることを知らなかった」という声も挙がっており、平常時から財団の支援体制についてPRすることの必要性も指摘された。

3. アクション・プランの策定

今後の支援方針については、2.1.で述べた3つの方針を継続する。現地調達・支払代行を基本とすることは、配送コストが削減されるため、その分の資金を支援に充当することができる。さらに、図書館への支援にとどまらず地元経済への支援にも繋がるよう考慮する。

委員会ではアクション・プランの策定に当たり、まず被災した図書館や自治体などからの支援要請の受付開始はいつごろからが適当であるか検討した。大災害の発生直後は、何よりも被災者の生命と安全を確保することが最優先されることや、ライフラインが不安定なことで、図書館から支援要請を行うことは困難と考えられる。阪神・淡路大震災発生時、神戸では被災直後から図書館は閉館となり、図書館職員全員が救援物資の配送や避難所運営等の業務に従事したので、支援を受けたとしても図書館業務を行うことは不可能であった。今回の震災でも財団が最初に支援要請を受けたのが、震災後1ヶ月を経過した4月中旬であり、それを受けてホームページで支援要請の受付を開始している。現地の状況・事情にもよるが、支援要請はライフラインが復旧する概ね1ヵ月後から本

格化すると考えられる。しかし、今後は、今回の支援実績やこのアクション・プランの公開により、被災直後から支援要請を受けることが想定されるため、出来る限り迅速に支援要請の受付を告知することとする。

続いて、被災地の復旧、復興過程において、また図書館の再開状況に応じて具体的などのような支援が望まれるのか。委員からの意見および今回の支援実績から様々な支援項目を挙げ検討を行った。支援の時期については以下の4期に分けて、想定される社会環境や財団が行う支援の基本的なタイミング、被災図書館が希望する支援タイミングと支援対象を「別表1」にまとめた。

- ① 緊急時（被災直後から概ね1ヶ月まで）
- ② 復旧期（被災から概ね1ヵ月後から）
- ③ 復興期（被災から概ね半年後まで）
- ④ 平常へ（被災から概ね半年後以降）

今後、このアクション・プランを財団ホームページに掲載することにより、災害時の支援体制を明らかにする。《表4》および《留意事項》は現状で財団が実施する具体的な支援項目である。被災図書館にはこれらを支援要請に際しての参考としていただきたい。被災図書館の一日も早い復旧に役立つことを願う。

《表4》支援項目および支援体制のあり方

	項目	今後の支援体制のあり方
①	新刊書の提供	選書は不可能だが、希望リストを提供してもらえれば、TRCの在庫を活用して対応する。
②	簡易書棚の提供	段ボール製書架を提供する。
③	ブックモバイルの貸与	新車に限り、リースの手配・支払代行を行う。
④	被災前の住宅地図	各地ゼンリン営業所で販売。支払代行を行う。
⑤	ブックトラック短期利用	支払代行を行う。
⑥	中央紙を被災地へ	購読費の支払代行を行う。
	避難住民の地元紙を避難先へ	
⑦	図書の除菌器短期レンタル	数台まではレンタルで対応する。要望多数の場合は要検討。
⑧	その他図書館業務に必要なもの	現地で購入した経費の支払代行を行う。

《留意事項》

① 新刊書（復旧期から平常へ）

災害により自宅に戻れず避難所での生活を余儀なくされた住民にとっては、読書は心を癒すために重要であり、また生活再建のための情報や子どもの心のケアにも新刊書が必要である。そういった被災住民への対応については、希望リストを提供しても

らえれば、株式会社図書館流通センター（TRC）の在庫等を活用し対応する。支援の実施については、財団では選書ができないことや物流の確保が前提であることへの留意が必要である。

② 簡易書棚（復旧期から復興期）

地震によって、図書館が閉館に追い込まれた例や、建物は持ちこたえたが書棚へのダメージが大きく、書棚が倒壊あるいは使用ができない状況になった場合や被災地の避難所等に簡易の図書コーナーをつくる際など、応急的、簡易的な書棚の要望が数多く寄せられた。当財団ではそのような声に、扱いが容易で一時的な利用に最適な段ボール製書架を提供した。（写真）



今後もこのような段ボール製書架の供給体制の確保に努めてゆく。

③ ブックモバイル（移動図書館車）（復旧期から復興期）

ブックモバイルの持つ機動性により、多くの図書を被災住民に届けられることは有効な支援策であり、東日本大震災では被災地以外の自治体やNPO、民間企業等の団体が図書館車の提供を行った。財団でも民間企業から提供された車両に対してリース契約を代行したが、車両に問題があり、有効に活用されなかったため、今後は新車に限り、リース契約・支払の代行を行う。

④ 被災前の住宅地図（復旧期から）

地域の図書館は地域の記憶として住宅地図を保存してきた。居住地の確認やボランティア活動の受入れにも不可欠である。津波により建物ごと全資料が失われた図書館が復旧するためには、必要な資料であるが入手は難しい。地図情報大手の株式会社ゼンリンに問い合わせたところ、過去の版は内部資料として保管するのみで、原則旧版の在庫は行わない。東日本大震災被災地に対しては、特別に現地営業所にて震災前の版を販売している。現行版のプリントサービスは全国のセブンイレブンで可能である。

⑤ ブックトラック短期利用（復旧期から復興期）

図書の移動や仕分け作業、書架から落下した図書の整理、仮置きなどにブックトラックは不可欠であり、今回の支援でも実績がある。短期間レンタルではなく消耗品とし、購入して対応している。

⑥ 中央紙を被災地へ、避難住民の地元紙を避難先へ（復旧期から平常へ）

他の地方へ避難した住民に被災地の復旧、復興情報や地元に戻るために必要な情報を提供するため、多くの自治体が避難してきた被災者向けに被災地の新聞を用意している。今回財団では支援要請を受けなかったが、本・雑誌と同様、被災し避難等して

いる人たちにとって、正確な情報源である新聞の提供は重要であると考え。また、地震の規模が大きければ大きいほど物流の混乱は必至であり、新聞の配達は寸断され、図書館の資料収集の面に大きな影響を及ぼす。

このことから、即日対応は難しいが、新聞を届けることも重要な支援だと認識し新聞社とも連携し、確実な受け入れ先や担当者が明確な場合には対応したい。届先・担当者が明確であれば、購読費の支払代行等の方法で対応が可能と考える。

⑦ 図書館の除菌器短期レンタル（緊急時から）

東日本大震災では、資料の汚破損や津波での流失等の被害が見られた。被災図書館からは「資料の汚れや、本のページの間に入ってしまった細かなゴミを除去したい」という声が寄せられた。震災によって衛生環境が悪化した際には図書館の受け渡しが利用者やスタッフの心理的な負担になることや、1冊でも多くの図書館を有効に活用したいという現地の意向も考慮すると、図書館の除菌器を被災図書館にレンタルすることは有効だと考える。

なお、機器の効果を検証することや、製品への評価は当委員会の目的ではない。

《参考：図書館の除菌器の例》



〈ブックシャワー〉

H1345×W600×D528mm



〈除菌 BOX〉

H613×W450×D450mm

別表1 被災図書館への支援時期・内容

公共図書館		緊急時 (被災直後) ～1カ月	復旧期 (インフラが復旧) 1カ月～	復興期 (避難所閉鎖に向けて ・仮設住宅建設) ～半年	平常へ (避難所閉鎖) 半年～	通常 ～3年間
図書館に支援 図書館がある自治体 (司書がいる)	市民に向けた物資	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞(中央紙、号外) ・本(新刊・市民の要望書) ・電話帳 ・インターネット環境 ・情報発信機器(HP作成機器・通信機器など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・古地図 ・住宅地図 ・生活再建情報(免許証・保険証・各種公共機関の支払など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅集会室などへの書棚 		
	図書	気分転換になる図書 <ul style="list-style-type: none"> ・漫画 ・絵本 ・クロスワード ・迷路 等 	生活復旧に必要な図書 <ul style="list-style-type: none"> ・葬儀取扱 ・会社精算 ・各種申請 等 	生活安定に必要な図書 <ul style="list-style-type: none"> ・小説 ・料理本 等 		
	業務で必要な支援・物資	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックトラック ・BM ・図書の除菌器 ・空気清浄機・除湿機 ・人手・マンパワー 	<ul style="list-style-type: none"> ・装備用消耗品(ブックコート・ハサミ・定規) ・補修用消耗品(テープなど) ・被災貴重図書の復旧(津波等による) 	<ul style="list-style-type: none"> ・震災資料収集(行政・避難所発行物など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書運搬車(BMがない場合) ・震災資料整理・保存のための消耗品 	
図書館がない自治体【類似施設など】	必要図書	避難所に本が置ける簡易な書棚	避難所での本を整理する人	避難所の本や本棚を整理する人、仮設住宅集会室など新たな生活の場への支援準備	仮設住宅集会室などへの書棚設置	
図書館で必要となる物資【自治体全体で支援されそうな物資】		<ul style="list-style-type: none"> ・衛生用品(マスク・消毒薬)・消耗品(雑巾・トイレトペーパー)など 				
学校図書館		<ul style="list-style-type: none"> ・【被災～1年間】学校の安定運営のため学校図書館整備までは手がまわらない ・【2年後～】学校図書館の整備に先生方は考えられるようになる ・【3年後～】学校の統廃合はじまる。児童・生徒のPTSDが発症(予測) 				